

大城ひかるのベトナム



通信

-27-

シンチャオ
(Xin chào)
おきなわ



旧ケサン基地に展示されている古い米軍機。ケサンはラオスまで10kmの距離(筆者撮影)

「ベトナムで沖縄は『悪魔の島』と呼ばれているってホント?」
昨年、沖縄に帰ったとき、古くからの友人にこうたずねられました。もちろん、質問の意図はすぐ分かりました。ベトナム戦争に沖縄の米軍基地が深くかかわっていたことは沖縄県民ならだれで

も知っています。写真家石川文洋氏の作品がホーチミン市の戦争証跡博物館にあることもよく知られています。しかし「悪魔の島」とは聞いたことより、以前も少しご紹介しましたが、ベトナム人が「沖縄」を全く知らないため、何とか沖縄の認知度を高めたいと思っているぐらいだったので、正直「へ?」という感じでした。
こちらに戻ってから、さっそく一番仲がいいベトナム人教員に聞いてみたところ、彼女もそんな話は初耳だというのです。彼女のお母さんと私は同年代で、母親や祖父から聞いた昔の話をときどきしてくれます。祖父

戦争でつながる沖縄とベトナム

からは沖縄に米軍基地があることは聞いていたのですが、「悪魔の島」とは一度も聞いたことがなく、「もしそんな話があったなら、祖父や母が私に話さないはずがない」と力説するので、ちよつとびっくりしました。私に気を遣ってくれたのでしよう。
中部のクアンチ省を訪ねたときも、ガイドに聞いたことがないと言われました。クアンチはかつて南北ベトナムの境界線だった北緯17度が省を横断しています。ラオスとの国境に近いケサンには、米軍がホーチミンルート破壊のため基地を置いたことから、ベトナム戦争の激戦地として有名で、戦争遺跡を訪ねる

ブラックツーリズムが盛んな土地です。そこでも「悪魔の島」は聞かないとのことだったので、一部の人の口にしたことはあったのかもしれないが、広く言われていたとは考えにくいとの結論に至りました。
沖縄に生まれると、「戦争」を意識せずに成長することはできません。しかし、ベトナムの20代の若い先生たちに聞いてみると、両親や祖父母から戦争の話聞いたことがある人が少ないのに驚かされます。祖父母が戦争で亡くなっていたり、または日本に比べ平均寿命が短いため、話を聞ける年齢までに亡くなってしまう場合も少なくありません。あえて話さなかった、ということもあるでしょう。貴重な話を身内から聞く機会がないことを残念だと思つのは私が沖縄出身だからで

しょう。
今は博物館となっている、かつての米軍ケサン基地を訪れた際、壮絶な戦いの話を聞いた後、雑草が生い茂る屋外の米軍機展示場を見学しました。今は広い原っぱとなっているかつての滑走路にポツンポツンと爆撃機や輸送機が、雨風にさらされて置かれています。そこに立つと、戦争によってつながったベトナムと沖縄を強く意識せずにはいられませんでした。若い米兵や地上で息をひそめるベトナム人の映像が頭に浮かんで消えていきます。一緒に行った40代の女性同僚が遠くから「もう帰ろう」と呼びかけるまで、私は北風に吹かれながら古い米軍機をぼんやりと見つめていました。
(ご意見・ご質問をお聞かせください。oshiro@kaizen.edu.vn)